

ちょっと
気になる?!

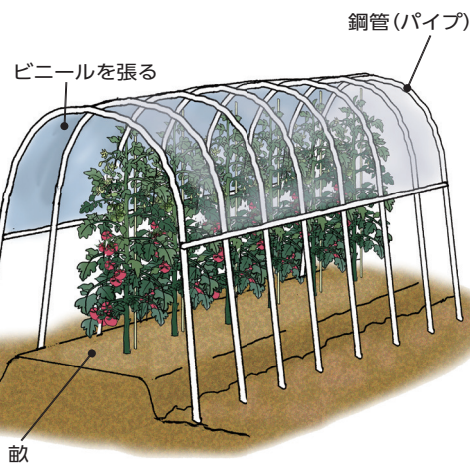
野菜の豆知識

果菜編①

このページでは、野菜栽培をするうえで、よくある疑問にタキイのブリーダーがお答えします。



タキイ茨城研究農場
はがい しゅうへい
羽貝 周平



↑雨よけ栽培では、茎葉の病害を防止し、きれいな果実が収穫できる。比較的安価で簡易雨よけハウスのセットが販売されている。家庭菜園でミニトマトを育てるなら、天井だけビニールを張った簡易なものでも効果がある。

Q

トマト栽培で簡易な雨よけでも
メリットはありますか？

(1) 草勢管理のしやすさ

雨よけはトマト栽培にとって、とても有効です。そのメリットは大きく分けて3つあります。

トマトはその生育段階によって水の必要量が変わってきます。初期(定植〜3段目開花)

の草勢管理は水管理によって行いますが、雨水が入ってしまう環境だとコントロールが利かず、草勢が強くなってしまう傾向があります。さらに、草勢が強すぎると花が弱くなり、1段目の果実がつかないことがあり、それによってまた草勢が強くなってしまうといった悪循環に陥りやすくなります。

(2) 裂果の予防

トマトの果実にヘタのところからひびが入

(3) 病気の予防

ってしまった経験はないでしょうか？ この原因の一つが雨水です。雨水によって土壌中の水分のコントロールができなくなります。そして、果実の着色期に大量の水を吸い上げてしまうと裂果が起こりやすくなります。

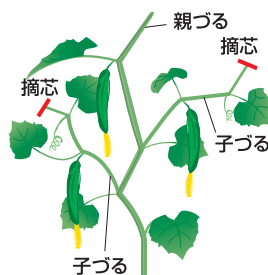
トマトの栽培中は常に病気に気を付けなければなりません。雨で作物が濡れたり、泥がはねて作物にかかってしまったらすると、病気のリスクが高まります。耐病性をもつ台木を使っても穂木から病原菌が侵入してしまう可能性もあります。

雨よけをするだけでこの3つの効果が期待できます。雨よけ栽培に挑戦し、良品質なトマトを収穫してみましょう。

Q

キュウリには雌花と雄花があり、雌花率という説明を見ますが、雌花率が低いと実にならないのでしょうか？ 雌花率を上げるにはどうすればいいですか？

キュウリは、雌花と雄花が同じ株に混在して着生します。花は節に着生して、どちらかの花が順序なく発生します。雌花の分化は、低温、短日で促進されるため、同じ品種であっても播種する季節に応じて主枝(親づる)に着生する雌花の数と割合は変わります。管理で雌花率を上げるためには、枝の摘芯が最も効果的です。その理由は、側枝(子づる)、孫枝(孫づる)の1節目にはかなり高い確率で雌花が着生するからです。高確率で着生する雌花の節を増やすことが、株全体の雌花率を上げることに繋がります。



子づるは本葉2枚を残し、その先で摘芯する。子づるの1節目に着果する。

Q

夏秋用品種と抑制用・促成用品種の違いは何ですか？
露地の夏秋栽培に促成用品種を使うとどうなりますか？



↑キュウリの尻太り果。草勢が低下していると同化養分が種子のある下部に集積して肥大する。日照不足のときに発生が多い。

キュウリの夏秋用品種は、露地での栽培を基本としているため、風雨に強い葉をもちます。また、訪花昆虫による受粉もあるため、尻太り果が多く発生しないよう露地品種の単為結果力は適度なレベルに設定されています。促成用品種は低温伸長力があり、葉がやわらかく、ハウス内の好適な条件

で順調に生育するよう改良されています。抑制用品種は、暑さに強く、厳しい環境でも収穫できるように単為結果力が強く設定されています。露地の夏秋栽培に抑制用・促成用品種を用いると風雨で葉が傷みやすく、受粉の影響で尻太り果などの不良果が多く発生してしまいます。

タキイ茨城研究農場
ばん ば だい ごと
馬場 大悟

Q 石ナスやつやのない果実、小さいまま大きならない果実が多いのですが、何が原因でしょうか？

定植後の低温期では、花粉の働きが不十分であると石ナスが発生します。また、梅雨明け後の高温乾燥時期では、なり疲れによる草勢低下に加え、過繁茂や水分不足によって、首細り果や着色不良果、つやなし果の発生が多くなります。

これらを防ぐために、低温期には着果処理（ホルモン処理）を行います。さらに、早めにくわゆる細い枝や古い葉、傷んだ葉を取り除き、株の内側にも光が当たるようにして、充

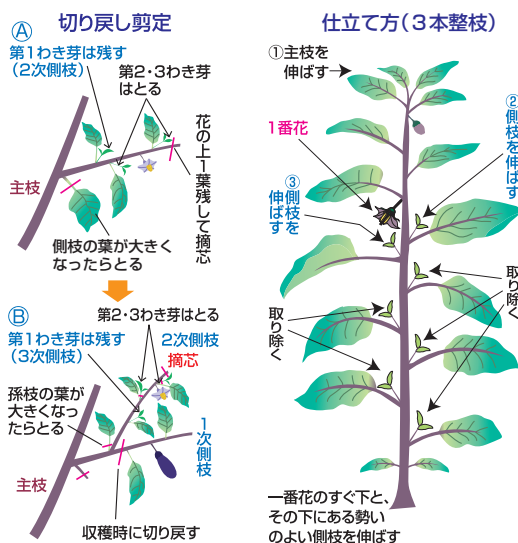
実した側枝の発生を促します。乾燥と地温上昇を防ぐために畝や通路に敷きわらやフィルムなどでマルチングをして、こまめに灌水を行うと草勢が早く回復します。

花粉の働きに関係なく着果する単為結果性品種の「PC筑陽」は、石ナスや着果不良が少ない特性があります。今年の栽培に「PC筑陽」をぜひ取り入れて、その特性を実感してみてください。



低温期には3～5番花ぐらいまでホルモン処理（トマトーン50倍）で着果させます。1～3番果ぐらいまで順調に着果させると草勢が落ち着き、なりぐせがついて、その後はホルモン処理をしなくても着果していきます。畝には敷きわらやマルチ被覆をします。

品質重視の直売所出荷の場合は、果実の商品性と株の草勢を維持する目的で整枝栽培が適しています。整枝栽培では、初期は主枝3～4本仕立てを基本とします。側枝は1花目の先端に葉を1枚残して摘芯し、収穫の際、2次側枝の1芽を残して「切り戻し」を行います。残した2次側枝が伸びたら同じように摘芯、収穫、切り戻しを繰り返します。側枝の切り戻しをしつかり行うことによって、着果数が制限されますので、過度に着果数が増えて着果負荷がかかることを防ぎ、栽培後半まで草勢が安定します。また、果実に光が十分に当たって果色が濃くなることから、長期にわたって良品が収穫できます。



Q ナスの基本的な仕立て方や果実の着果数の目安を教えてください。



タキイ研究農場にしざわ西澤 かなこ可奈子

Q 甘長トウガラシで辛いものがあるのですが、どうすれば辛味果を防げますか？ 食べる前に見抜くことはできますか？



↑甘長トウガラシの代表的品種「甘と美人」(右)と「伏見甘長」(左)。

ピーマンやパプリカは辛味成分を作る遺伝子が失われているため、辛味果は発生しません。一方の甘長トウガラシですが、辛味果が出にくいと言っても基本的にはトウガラシです。辛味成分を作る遺伝子を持っているので、環境や条件によって辛味果が発生してしまいます。

辛味果発生の環境要因は、高温や乾燥によるストレスであると考えられています。高温期の灌水制限試験では、辛味果が3割以上発生したこともあり、夏場は特にリスクが高いと言えます。こまめに灌水を行うとともに、ハウス栽培の場合は高温期

に遮光をして気温の上昇を抑えましょう。

辛味果の辛さの程度はさまざまですが、時に「鷹の爪とうがらし」ほどの強い辛みが発生します。特にお子さんがいるご家庭では注意が必要です。辛味成分は胎座周辺に集中しているので、辛味果はヘタから縦に切り込みを入れて軽く割り、香りをチェックするとわかりやすいでしょう。スパイシーな香りがある場合は、要注意です(笑)。また、辛味果であっても先端部分(果頂部)は辛味が比較的マイルドなので好きな方はどうぞ。



タキイ研究農場 夫津木 大輔